



西中の風

～ 継続と徹底～

伊丹市立西中学校長

垣内 修

第74回 卒業証書授与式を挙行了しました①

3月9日（木）に、素晴らしい天気のもと、第74回卒業証書授与式を挙行了しました。今年も昨年同様、新型コロナウイルスの影響により、在校生とご来賓の皆さまにはご参列いただけず、内容も簡略化して行われました。192名の卒業生が担任からの呼名に対して立派に「はい」と返事をした後、校長から各クラスの代表者に卒業証書が手渡されました。とても素晴らしい卒業式でした。西中を巣立った卒業生の皆さんに幸多きことを願います。

さて、在校生の皆さんが卒業式に参列できませんでしたので、本号から3号にわたって校長式辞、送辞、答辞を紹介したいと思います。式に出席しているつもりで読んでほしいと思います。2年生は来年、1年生は再来年に卒業していきます。それまでの間、先輩から引き継いだ伝統を守り、そして発展させ、素晴らしい西中学校を作り上げてほしいと思います。

学校長式辞

冬の寒さも和らぎ始め、暖かな春の訪れを感じる今日のよき日に、伊丹市教育長様をはじめ、PTA会長様、そして保護者の皆様方のご臨席のもと、「西中学校 第七十四回卒業証書授与式」を挙行できますことは、私共教職員のこの上ない喜びであります。また、皆様には、三年間にわたり、本校の教育に対するご理解とご協力をいただきましたこと、深く感謝申し上げます。

さて、卒業証書を手にした百九十二名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。中学校卒業という人生の節目を迎え、希望や不安・惜別の思いが交錯しながらも、今は、未来に向かって大きく羽ばたくことへの「期待」を感じる、そんな心境ではないかと思います。これまで一生懸命に取り組んできた皆さん一人ひとりを誇りに思うとともに、私たちに多くの感動を与えてくれたことを、とても嬉しく思います。

思い返せば、皆さんの中学校生活は、新型コロナウイルス感染症に翻弄された三年間となりました。小学校卒業を前に全国の学校が臨時休校となり、中学校の入学式に参加しましたが、5月下旬まで休校が続きました。

憧れの中学校生活の幕開けにもかかわらず、自宅学習となり、皆さんにとって、ご家族にとって、とても不安な日々だったと思います。

「早く登校したい」「クラスみんなで授業を受けたい」、「友達を作って交流したい」、「部活動をしたい」、など、新たな中学校生活に思いをはせながらも、分散登校を経て、2カ月後の6月中旬に、やっと、全員が登校でき、マスク越しに顔を合わせることができるようになりました。

その後も、給食の黙食、夏休みの授業、7時間授業、部活動の制限、体育大会・文化祭の規模縮小など、さまざまなことを受け入れざるを得ない状況となりました。

それまで当たり前と思っていた日常は、決して当たり前のものではなかったのです。

けれど皆さんは、嘆きながらも、できることについて考え、互いに協力しながら学校生活を送ってきました。

学年の先生方、保護者の皆様の支援や見守りを受けながら、その状況を理解しようと努め、工夫しながら、着実に、さまざまな制限があり、言葉にならない不安を感じながらも、授業や行事、部活動・委員会活動などに打ち込み、常に前向きにチャレンジし続けてきました。

そんな日々の繰り返しのなかで、「あいさつの大切さに気がついた人」がいます。

悩んでいる友人や弱い立場にある人を「支えてくれた人」がいます。感謝の気持ちを持ち「心からありがたうと言えるようになった人」もいます。

どんな状況であっても、当たり前前のことを当たり前に行うのが実は一番難しいのですが、日々誠実な学校生活を送ることを通して、皆さんは、この西中学校に少しずつ変化の兆しをもたらしてくれました。

学校に登校できることが「当たり前」ではないことを経験した皆さんは、西中学校の生活を、とても、とても大切にしてくれたと思います。

皆さんの努力は言うまでもありませんが、それを陰で支えた先生方や保護者の皆様の力があつたことを忘れてはなりません。

思えば、コロナ禍で過ごした三年間は皆さんにとって、大切な人の存在を確かめ、多くの方々に支えられていることを実感し、「人と人との絆」の大切さを感じる時間だったのかもしれない。

改めて、西中学校を巣立っていく皆さんに、一つだけ、はなむけの言葉を贈るとすれば、これからの長い人生を「しなやかに生き抜いてほしい」という言葉を贈ります。

長い人生を生きていく上で、様々な困難に出会うことでしょう。数えきれないぐらいの挫折や失敗を経験するはずですが、けれども「挑戦」に挫折や失敗はつきものです。つまりいて転んでも、再び立ち上がればいいのです。何度でも何度でも、「しなやかに」立ち上がって、この変化が激しい現代社会を生き抜いてほしいと願います。

皆さんはコロナ禍で、多くの人に支えられて生きていることを知りました。苦しい時に手を差し伸べてくれる人は必ずいます。「人と人との絆」を大切に、試練を機会だと捉え、一度や二度の失敗でへこたれずに、夢へ向かって進んでいく、そのような人生を皆さんに送ってほしいと願っています。「しなやかに生き抜いて」ってください。

最後になりますが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

保護者の皆様には、今、晴れやかに巣立ちいくお子様の英姿(えいし)を目の前にされ、幼いころからの生い立ちを思い出されるなど、感慨もひとしおのことと存じます。中学校時代は心身ともに大きく成長する時期ですが、あり余るエネルギー故に、時に親としてのご苦労も多々おありになったことと存じます。

しかし、子どもたちは、なかなか口には出さないかもしれませんが、ちゃんと分かっています。

「自分たちは決して一人で大きくなったわけじゃない」ということ

「わかっているのに、思いと裏腹になって、いっぱい口答えしてしまった」こと

「いっぱい心配をかけて、ごめんなさい」と思っていること

「素直になれないときも、落ち込んだときも、そばにいてくれた家族」に感謝していること

毎朝の「いってらっしゃい」が元気の源だったこと

「進路で迷ったときに背中を押してくれた家族」のこと

「辛いことがあって、ふさぎ込んでいたときも、家族の支えがあつたからこそ乗り越えることができた」こと

そして、「いつになるか分からないけど、次は、自分たちが幸せを届けたい」と思っていることを……

本校の卒業は、お子様の努力の結晶であると同時に、絶えずお子様を励まし、温かく育んでこられました保護者の皆様方の薫陶(くんとう)のお蔭でもあります。このような頼もしい姿として実を結びましたことに、心から敬意とお祝いを申しあげます。

また、今日まで三年間にわたり、本校の教育活動に寄せられました、温かいご理解とご協力、そしてご支援を賜りましたことに、この場をお借りし、改めて心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

卒業生の皆さん、私たち教職員一同は、皆さん一人ひとりの成長と活躍を心から応援しています。皆さんとの出会いに感謝するとともに、夢に向かって進んでいく皆さんのこれらからの前途に幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。

